

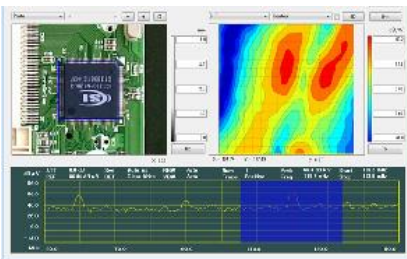
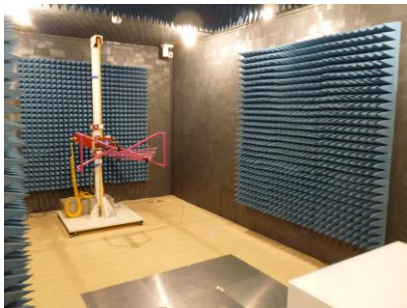
EMI 計測システム

平成 26 年度、平成 31 年度、令和 6 年度 電源立地地域対策交付金事業により導入

機種： 技研興業（株）電波暗室、コロナ電子工業（株）アンテナポジショナ・ターンテーブル・コントローラ CAT-200 システム、森田テック（株）EMC ノイズスキャナー WM7300【平成 26 年度】、TESEQ 製 CBL6141B【平成 31 年度】、キーサイト・テクノロジー（株）スペクトラムアナライザ N9000B、（株）EMC システムズ EMI ソフトウェア・システム制御、（株）協立テクノロジー擬似電源回路網【令和 6 年度】

用途： 空間全体を金属でシールドし、天井、壁、床の 6 面に電波吸収体を設置した電波暗室内において、被試験装置から放射される電磁波ノイズを測定します。

仕 様



- ・サイズ W5800 mm×D2800 mm×H2810 mm
- ・構造 シールドパネル(t=21mm)組立構造
- ・シールド扉 W1200 mm×H2000 mm
- ・電波吸収体 フェライトタイル
+8 インチ発泡ウレタン製電波吸収体
- ・シールド性能 電界 150 kHz-30 MHz 100 dB 以上減衰
平面波 30 MHz-6 GHz 100 dB 以上減衰
- ・フィルター性能 150 kHz-6 GHz 100 dB 以上減衰
- ・サイトアッテネーション性能 <30 MHz-1 GHz>
ANSI C 63.4 に規定される正規化サイトアッテネーション特性(NSA)に対し電波暗室における特性の補正値導入後の偏差が±4 dB 以内
- ・アンテナポジショナ稼働領域 1 m-1.5 m
- ・ターンテーブル直径 1.2 m
- ・ターンテーブル耐荷重 500 kg
- ・ターンテーブル供試機器電源
単相 100 V 15 A, 200 V 30 A
- ・雑音端子電圧測定 150 kHz-30 MHz,
単相 100 V 15 A, 200 V 15 A
- ・放射妨害電界強度測定・・・30 MHz-6 GHz
- ・ノイズスキャナー測定範囲
W420 mm×D297 mm×H200 mm
- ・ノイズスキャナー測定周波数・・・150 kHz-6 GHz

使用例： 評価対象の電子装置から放出される不要な電氣的ノイズを、電波暗室内で測定することで、VCCI、CISPR、FCC 等のノイズ限度値を超えていないか評価できます。3m法準拠の暗室ですので、開発機器を認証試験所に持ち込む前の確認用として、また開発段階での対策評価として有効な設備です。ノイズスキャナーは A3 サイズまでの電子基板等に対し、専用プローブを走査することにより、ノイズ発生場所を視覚的に把握することが可能です。